

ISLIS 第55回生命情報科学シンポジウム 2023年3月11・12日(土日) Zoom開催

<会長講演>

大学院という高等教育機関による統合医療教育

川嶋 朗

国際生命情報科学会(ISLIS) 会長、神奈川歯科大学 大学院統合医療学講座 特任教授

要旨: 日本には国民皆保険制度という世界に冠たる医療制度があるが、このためか日本国民は健康増進への意識が高い方ではなく、健康維持に努めるどころか通常は放置状態で、健康を損なった場合に医療者に依存すればよいといった傾向が強い。その結果国民医療費は40兆円超となり、これに介護費や生活保護費、救急車の出動費などを加えると税収に匹敵してしまう。このままでは日本は破綻してしまいかねない。人生100年時代を迎え、高い医療水準と医療技術で治す医療から高い幸福度やQOLを実現する癒す医療が求められている。それをいち早く見越した欧米ではこの理念を含む統合医療が盛んにおこなわれるようになってきている。西洋医学については、基本的に根拠に基づく医療 Evidence-based Medicine (EBM) が求められるが、EBMは人工知能に凌駕される日が来ることは明らかである。しかしながら、補完代替医療は科学的根拠に乏しく、人工知能では対応が難しい。科学的根拠に乏しい癒す医療こそ人間の医療者にしかできないのである。それは科学的根拠だけではなく、価値観や人生観、死生観まで理解できるのは人間だけだからだ。慢性疾患が増え、在宅医療の拡大が図られる中で、限られた医療資源を適正に配分し、多くの患者が恩恵を受けられるようにするには統合医療がもっとも適している。ところが、日本では医学界や行政が統合医療と積極的に取り組んでこなかったため、統合医療の正しい実践がなされず、さまざまな民間療法が野放し状態となり、これに依存したいわゆる癌難民などの被害者もあとを絶たない。統合医療を体得し、理解できる人材を養成するには高度の大学院教育が必要である。行政による規制が進まない現状で、統合医療という概念が日本に浸透し、国民を守るには、正しい知識や実践方法などを、医師も含めた提供者に教育することが急務である。とはいえ、これまで、日本には補完代替医療を総合的に学べる高等教育機関はなかった。2022年4月、神奈川歯科大学大学院に統合医療学講座が誕生し、日本初の高等教育機関による統合医療教育が始まった。その現状などについて述べる。

キーワード: 統合医療教育, 神奈川歯科大学大学院, 統合医療学講座, 価値観, 人生観, 死生観

連絡先: 川嶋 朗 神奈川歯科大学大学院統合医療学講座 〒108-0074 東京都港区高輪 2-16-5

TEL: 03-6456-3102 E-MAIL: kawashima@togoiryo-kdu.jp

<次期会長講演 1>

医療に体(たい)と用(ゆう)のあるを知るべし

帯津 良一 医師・医学博士

国際生命情報科学会(ISLIS) 次期会長・特別評議員, 日本ホリスティック医学協会 名誉会長,
帯津三敬病院 名誉院長

要旨: 能楽ではその本体である音曲を「体」といい、それによって動くおもむきのある所作が醸し出す風情を「用(ゆう)」というように、医療においてはその患者さんに合った個性的戦略が「体」、患者さんと治療者がしっかりと寄り添い合うことが「用」である。医療者たる者はこのことを肝に銘ずべきである。

キーワード: 体, 用, 個性的戦略, 寄り添い合う

帯津 良一: 医療法人直心会 帯津三敬病院 名誉理事長 〒350-0021 埼玉県川越市大字大中居 545 番 Tel: 049-235-1981

<次期会長講演 2>

生と死の統合社会を目指して

帯津 良一 医師・医学博士

国際生命情報科学会(ISLIS) 次期会長・特別評議員, 日本ホリスティック医学協会 名誉会長,
帯津三敬病院 名誉院長

要旨: 医療とは場の営み。場を制するは戦略、戦略の効果を高めるためには患者さんと治療者が命で寄り添い合うこと。命に寄り添うことによって死の向こう側が見えて来る。生と死の統合こそホリスティック医学の究極である。すべての人が生と死の統合を果たした社会をつくるのがホリスティック医学の更なる究極である。

キーワード: 場, 戦略, 命に寄り添う, 生と死の統合, 生と死の統合社会

帯津 良一: 医療法人直心会 帯津三敬病院 名誉理事長 〒350-0021 埼玉県川越市大字大中居 545 番 Tel: 049-235-1981

<理事長講演>

ホリスティック医学と不思議の科学の拠点に 世界一の「潜在能力科学研究所」と 「いやしのビル」の実現を目指して (Base for Holistic Medicine and **Wander Science** Aiming at the Large-Scale “**Human Potential Science Institute**” and “**Healing Hall**”)



山本 幹男 博士(医学), 博士(工学)

(Mikio YAMAMOTO, Ph.D., Ph.D.)

国際生命情報科学会(**ISLIS**)理事長・編集委員長, 国際総合研究機構 (**IRI**) 理事長,
「潜在能力科学研究所」 創立責任者, 「いやしのビル」企画委員長

要旨: 「ホリスティック医学と不思議の科学 II」を主テーマとして、2023年3月11・12日(土日)に第55回生命情報科学シンポジウムを国際生命情報科学会(**ISLIS**, イスリス)主催、国際総合研究機構(**IRI**, アイリ, 愛理)共催、日本ホリスティック医学協会(JHMS)協賛でネット上で開催する。この大会長を日本のホリスティック医学の第1人者 降矢 英成 **ISLIS** 理事、赤坂溜池クリニック 院長、日本ホリスティック医学協会 前会長にお願いした。多くの方の発表や参加を望む。**ISLIS**は、その兄弟組織でこの分野の幾多の研究成果を挙げてきた **IRI**と共に、**IRI**「潜在能力科学研究所」を創設し「いやしのビル」を建設し、ホリスティック医学を含むこの分野の世界一の拠点に育てたい。企画、構想、連携、研究者や多方面の人材の推薦等で皆様のご協力を得たい。このために現本部にスペースを既に借増し、**IRI** スタッフの増員公募も進め、現在までに40名ほどの参加で数回の人財募集説明も実施し、優秀な人材を既に10名ほど増員した。これまでに、小型ビルの基本設計は完了し、超大型ビルを含む大型ビル3棟の企画設計もほぼまとまりつつある。**ISLIS**の設立趣意は、物質中心の科学技術から、こころや精神を含んだ21世紀の科学技術へのパラダイム・シフト(枠組革新)を通じ、真理の追究と共に、人間の「潜在能力」の開花により、健康、福祉、教育と社会および個人の幸福や心の豊かさを大きく増進させ、自然と調和した平和な世界創りに寄与する事である。**ISLIS**は1995年の創立来27年間、現在の科学知識の延長で説明が出来そうも無い不思議なこころや精神を含んだスピリチュアル・ヒーリング、気功、潜在能力、超心理現象などの存在の科学的実証とその原理の解明を追求して来た。この間に生命情報科学シンポジウムを、海外での開催や14回の合宿形式を含め55回主催し、英文と和訳付の国際学会誌 **Journal of International Society of Life Information Science** (*J.Intl.Soc.Life Info.Sci.* or **Journal of ISLIS**)を年2号刊行し、総計7,000頁以上の学術論文と発表を掲載し続けてきた。この間に、不思議現象の存在の科学的実証には多くの成果を挙げた。しかし、その原理の解明は世界的にもほとんど進んでいない。本学会は現在、世界の11カ所に情報センターを、15ヶ国以上に約170人の会員を、擁している。

キーワード: ホリスティック医学, 国際生命情報科学会, **ISLIS**, イスリス, 生命情報科学, 潜在能力科学, 国際総合研究機構, **IRI**, アイリ, 愛理, 科学, 精神, 脳, 心身, 代替医療, CAM, 統合医療, IM, 予防医学, 未病, 精神神経免疫, スピリチュアル, ヒーリング, 気功, ヨーガ, 瞑想, 潜在能力, 催眠, 心, 不思議, 世界像, 世界観, 超常現象, 超能力, 超心理, 幸福

山本幹男 直通 nsnpoi@gmail.com Fax 043-255-9143 090-9232-9542

<大会長講演>

ホリスティック医学の真髄とは ~body-mind-spiritの視点から

降矢 英成

国際生命情報科学会(**ISLIS**) 理事、赤坂溜池クリニック 院長
NPO 法人 日本ホリスティック医学協会 前会長・常任理事

要旨: 今回、2023年3月11-12日 Zoom 開催の国際生命情報科学会(**ISLIS**)主催の第55回生命情報科学シンポジウムの大会長を拝命いたしまして身に余る光栄です。私は長年、日本ホリスティック医学協会では人間や病気を body-mind-spirit の全体的な視点からとらえようとする「ホリスティック医学」を追究してまいりました。

そして、昨年8月に **ISLIS**の「ホリスティック医学と不思議の科学」のテーマの大会でミニシンポに参加させていただき、ホリスティック医学の基盤としてよく取り上げられる量子物理学を巡る発表をさせていただきました。その際、現在の量子物理学の枠内では、エネルギー医学的なメカニズムは説明しきれないことを無分別智や神の物理学などの知見を挙げてお話しさせていただきました。さらに今回、「ホリスティック医学と不思議の科学II」をテーマにした大会の長を拝命いたしましたので、よりホリスティック医学の真髄を追究するために、今回は、「人文科学」的な科学の視点も含めたプログラムを提案させていただきました。具体的には、2つのミニシンポです。ひとつめは、「ホリスティック医

学のモデルとしてのチベット医学」ですが、チベット医学は、まさに body-mind-spirit の 3 つの視点をしっかり踏まえています、それは、食事療法やマッサージなどの body の治療、仏教の修行を含めた mind の治療、そして、密教の修行を含めた spirit の治療の 3 つがきちんとあり、かつその基盤が五大元素のエネルギーということです。このセッションでは、宗教学者でニンマ派の修行者でもある永沢哲氏と、現役チベット医のドクター・ニダ・チェグナサング氏にご登壇いただいた後に、指定発言として五体投地を日課として実践されている日本ホリスティック医学協会副会長の船戸崇史氏に参加していただき、ホリスティック医学の真髄を検討したいと思います。そして、もうひとつは、「心身相関の新しい可能性 スピリチュアリティを含めて」というセッションです。このセッションでは、「心身相関」という重要なキー概念が、今ではやや硬直化してしまい、本質や真髄にまで至っていないのではないかという疑問から、「新しい視点」、つまり body-mind-spirit のホリスティックな視点からの「心身相関」の 2 つの研究を取り上げます。まず、古今東西の心身相関的な宗教や芸術、修行などの知見をまとめて「身心変容技法」という視点から科研費研究をされてきた鎌田東二氏に、次に、心身相関を mind を超えて spirit までを含めて「ソマティックスピリチュアリティ」という概念を提唱されている日本ソマティック心理学協会の久保隆司氏にご登壇いただき、心身相加の本質、真髄に迫ってみたいと思います。

キーワード：ホリスティック医学, body-mind-spirit, チベット医学, エネルギー医学, 心身相関, 身心変容技法, ソマティックスピリチュアリティ, 国際生命情報科学会, ISLIS, 生命情報科学シンポジウム

連絡先：降矢英成, 〒107-0052 東京都港区赤坂 1-5-15 溜池アネックスビル 5 階 電話・03-5572-7821 E-mail: akatame5@kt.rim.or.jp

<副大会長講演>

アーユルヴェーダの世界観Ⅲ — 局所性と実在性 —

青山 圭秀

国際生命情報科学会 (ISLIS) 常務理事、株式会社アートオブサイエンス 代表取締役
元 カリフォルニア州立大学 客員教授、国際総合研究機構 (IRI) 理事

要旨：ガリレオに始まる近代自然科学の展開においては、1)因果性、2)連続性、3)決定性、4)局所性、5)実在性の 5 つが公準とされてきましたが、20 世紀初頭よりの量子力学成立とともに、1)~3)は葬り去られました。

残った二つ、4)局所性と 5)実在性は Einstein らが極めて強く固執したのですが、これらを仮定することで、1964 年、Bell 不等式が導かれました。しかし、同世紀終盤までにはその破れが実験的に確認され、二つの仮定のうち少なくとも一つは放棄しなければならないことが明らかとなりました。人間理性に根源的に根ざし、暗黙の了解とされてきたこの二つのうちどちらを捨てるのか。前回講演では局所性について検討しましたが、本講演では自然界の実在性に焦点を当ててみたいと思います。

キーワード：局所、実在、全体性、ベルの定理、不二一元論

連絡先：青山 圭秀 株式会社アートオブサイエンス (Art of Science, Inc.)

〒152-0032 東京都目黒区平町 2-23-20 - 201 E-mail: maria@art-sci.jp

<ミニ・シンポジウム 1>

ホリスティック医学のモデルとしてのチベット医学

Body-mind-spirit のホリスティックな視点を持つチベット医学の密教・ゾクチェンのエネルギー的な身体観に基づく智慧から学ぶ

Dr. ニダ・チェナグサング

チベット医師

(治療として薬・食餌法だけでなく、呼吸法、マントラ療法、ラのマッサージ、ヨガなども総合的に指導)

[逐次通訳：エリコ・ロウ (Dr. ニダ氏の弟子、在米ジャーナリスト)]

永沢 哲

アティゾクチェン研究所所長、宗教学者、ニンマ派修行者

指定発言：船戸 崇史

船戸クリニック院長、日本ホリスティック医学協会副会長

<ミニ・シンポジウム 2>

「心身相関の新しい可能性 ～スピリチュアリティを含めて」

「心身相関」はとても重要な視点ですが、今ではやや硬直化してしまっている感があり、修行や芸術も含む「身心変容技法」および、「ソマ（身体）」を「心」を超えて「霊性（スピリチュアリティ）」の視点からとらえる「ソマティック・スピリチュアリティ」の見解から学び、刺激としたい

「身心変容技法の視点から」

鎌田 東二

宗教哲学者、京都大学 名誉教授

「ソマティック・スピリチュアリティの視点から」

久保 隆司

日本ソマティック心理学協会 会長、神道学博士

<講演>

ピラミッドパワーの科学的研究（2007年10月～2023年3月） (Scientific Research on Pyramid Power: Studies from October 2007 to March 2023)

高木 治¹、坂本 政道²、河野 貴美子¹、山本 幹男¹

¹国際総合研究機構(IRI) (日本、千葉)

²㈱アクアヴィジョン・アカデミー (日本、千葉)

要旨: 我々は2007年10月以来、ピラミッド型構造物(pyramidal structure: PS)の未知なるパワー（ピラミッドパワー）に関して、被験者が入って瞑想することが可能なピラミッド模型を作製し、厳密に科学的な実験・分析を続けている。またピラミッドパワーを検出するバイオセンサ（食用キュウリ切片）の特性に関する研究も平行しておこなっている。研究成果として、下記内容の14編の原著論文、3編の総合報告、書籍中の1編を報告した。本講演では、これまでのピラミッドパワーを実証した実験結果と、最新の研究成果について発表する。今後、我々の研究成果が広く認められ、科学における新たな研究分野となり、幅広い応用の可能性が期待される。なお、研究成果の詳細は、国際総合研究機構（IRI）のHPに掲載していますので、ご覧ください。 <http://www.a-iri.org/iri-jp/>

研究成果（原著論文掲載順）

- (1) 2013年4月：PS内で瞑想した被験者による、バイオセンサへの非接触効果（ピラミッド効果）を発見した。
- (2) 2015年5月：PS内で瞑想した被験者による、遅延をともなったピラミッド効果を発見した。
- (3) 2016年6月：ピラミッド効果を検出するための一つの条件を特定した。
- (4) 2018年3月：バイオセンサから放出されるガス濃度の周期的（日内変動）な変化を発見した。
- (5) 2018年4月：キュウリの切断面の方向の違いによって、バイオセンサから放出されるガス濃度が異なることを発見した。
- (6) 2019年3月：6 km以上離れた被験者の無意識の影響と考えられるピラミッド効果を発見した。
- (7) 2019年8月：被験者の影響を除外した実験によって、PSの潜在力によるピラミッド効果を実証した。
- (8) 2020年5月：PS頂点に重ねて置いたバイオセンサに対するPS潜在力の影響は、下段と上段で異なることを発見した。
- (9) 2020年12月：季節変動するピラミッド効果と季節変動しないピラミッド効果を発見した。
- (10) 2021年7月：PSの潜在力が原因となる、バイオセンサ間のエンタングルメント（絡み合い）を発見した。
- (11) 2021年12月：バイオセンサ間のエンタングルメントの影響で、ガス濃度の日内変動の周期性が現れなくなった。
- (12) 2022年6月：バイオセンサ間のエンタングルメントを「Bio-Entanglement」と名付けた。ピラミッド効果の大きさを表すサイ指数 Ψ を、潜在力によるピラミッド効果 Ψ' と、Bio-Entanglementによるピラミッド効果 Ψ'' に分離した。PS頂点で、下段より上段のピラミッド効果が大きくなる要因は、主に潜在力によるピラミッド効果 Ψ' によること、ピラミッド効果の季節変化の要因は主に Bio-Entanglementによるピラミッド効果 Ψ'' によることを実証した。
- (13) 2022年11月：収穫後のキュウリから放出されたガス濃度の概日リズムは季節によって異なり、冬は8時間、春は6時間、夏は24時間、秋は24時間と12時間の混合リズムで振動していることが判明した。
- (14) 2023年1月：潜在力によるピラミッド効果 Ψ' と、Bio-Entanglementによるピラミッド効果 Ψ'' が、バイオセンサから放出したガス濃度の概日リズムの位相に影響を与えていることを実証した。

キーワード: ピラミッド、潜在力、瞑想、無意識、遅延効果、エンタングルメント、バイオセンサ、キュウリ、ガス、サイ指数、概日リズム

<研究発表>

ピラミッドパワーとバイオ-エンタングルメントが バイオセンサの概日リズムに与える効果

(Effects of pyramid power and Bio-Entanglement on the circadian rhythm of biosensors)

高木 治¹、坂本 政道²、河野 貴美子¹、山本 幹男¹

¹国際総合研究機構(IRI) (日本、千葉)

²㈱アクアヴィジョン・アカデミー (日本、千葉)

要旨:我々は2007年10月以来、ピラミッド型構造物(pyramidal structure: PS)の未知なる「パワー」を実証するため、バイオセンサ(キュウリ切片)を使用し、厳密に科学的な実験を続けている。これまでの我々の研究成果から、PSの潜在力(ピラミッドパワー)に関して次の4つの結果を得た。1) PSの潜在力によって、PS頂点に置いたバイオセンサに影響を与えるピラミッド効果の存在を明らかにした(春分と秋分で1年を2つの期間に分けた時、各期間のピラミッド効果を比較した結果、有意差を得た。 $p=6.0 \times 10^{-3}$, Welch's t-test, two-tails, これ以降のp値も同様)。2) PSの潜在力によって、PS頂点に2段に重ねて置いたバイオセンサに影響を与えるピラミッド効果が、下段と上段で異なることを明らかにした(ピラミッド効果の大きさを示すサイ指数が、下段のバイオセンサに対するサイ指数は-3.01でマイナスの値、上段に対するサイ指数は5.52でプラスの値となり、下段と上段のピラミッド効果の間で有意差を得た。 $p=4.0 \times 10^{-7}$)。3) PSの潜在力に、季節変化するものと、季節変化しないものがあることを明らかにした。4) PSの潜在力によって、バイオセンサ間のエンタングルメント(Bio-Entanglement)と考えられる現象を明らかにした。本発表では、バイオセンサのガス濃度の概日リズムに対して、ピラミッドパワーとBio-Entanglementの効果を別々に解析した。その結果、(i)ピラミッドパワーによって、概日リズムの位相が43分ずれた。(ii)ピラミッドパワー及びBio-Entanglementによって概日リズムの振幅が変化した。2段に重ねたバイオセンサの下段と上段に対する効果が異なり、下段の振幅を大きく、上段の振幅を小さくする傾向があった。(iii)ピラミッドパワーやBio-Entanglementが、ガス濃度とガス濃度の概日リズムを表す周期近似曲線との相関係数に影響を与えた。下段と上段のバイオセンサに対する効果が異なり、下段の相関係数を大きく、上段の相関係数を小さくする傾向があった。ピラミッドパワーに関する研究は、未だアカデミズムの世界では異端と見做されることが多い中、我々の実験結果は、この分野において世界初の研究成果である。今後この成果が一般に広く認められ、科学における新たな研究分野となり、幅広い応用の可能性が期待される。

キーワード:ピラミッド、潜在力、日内変動、周期性、エンタングルメント、バイオセンサ、キュウリ、ガス、サイ指数

代表著者連絡先: 〒263-0051 千葉県稲毛区園生町1108-2 ユウキビル4FA 電話043-255-5482 E-mail: takagi@a-iri.org

参考文献: Takagi, O., Sakamoto, M., Kawano, K. and Yamamoto, M. (2022) Potential Power of the Pyramidal Structure VI: Pyramid Effects due to Potential Power and Pyramid Effects due to Bio-Entanglement. *Natural Science*, **14**, 251-263. <https://doi.org/10.4236/ns.2022.146025>

Takagi, O., Sakamoto, M., Kawano, K. and Yamamoto, M. (2022) Potential Power of the Pyramidal Structure VII: Effects of Pyramid Power and Bio-Entanglement on the Circadian Rhythm of Biosensors. *Natural Science*, **15**, 19-38. <https://doi.org/10.4236/ns.2023.151003>

<一般発表>

アートセラピーにより無意識を意識化することで、人生を他者とのより自然な共存へと変化させる

黒須 美枝

アートセラピストアカデミー(有)代表 (埼玉、日本)

要旨:「怒り」「悲しみ」「不安」と言った感情は、繋がっていて、その時の状況によって、無意識に選択をしている。根本的な自分の心の課題をアートセラピーで気づくことで、他者の言動に対して意識の制御がなされていない反復化した自分の反応に気づける。「怒り」のテーマの画から、各自の無意識の怒りのエネルギーの特性を紹介する。その特性からもたらされるだろう人生の結果を想定し、体力や気力がある段階で反応を軌道変更することにより将来がより幸せへと繋がる可能性がある。

身近な人とも共存できない心のエネルギーが心身の不調と関連していると思われる。

キーワード:アートセラピー、無意識、反復、制御、繋がっている

連絡先: 黒須 美枝 アートセラピストアカデミー(有)

〒330-0855 埼玉県さいたま市大宮区上小町1204-6 E-mail: cross@arttherapist-academy.com

<一般発表>

ライトネット: 米国における意識拡張による知的生命体との交信研究の最前線

Eriko Rowe (エリコ ロウ)

マインドフル・プラネット・コミュニケーションズ・バイオ・エネルギー・トレーニング代表
ライトネット「ギャラクティック・アカデミー」インストラクター (シアトル、米国)

要旨: 米国では UAP (Unidentified Aerial Phenomena=UFO)の存在とその研究がすでに行われてきたことを米議会や国防省、並びに諜報機関が今年5月に公式に認め、一般人だけでなく科学者や医師の間でも、意識の科学、量子物理学の応用としての NHI (Non Human Intelligence 人間以外の知的生命体)との交信への関心や取り組みがおおやけになり広がっています。そんななかで、誰もが学べる NHI とのコンタクト方法の研究開発と、人類の意識変革と拡張を促進すべく結成された NGO, ライトネット <https://lightnet.org/> が「100 匹の猿」の育成を目的として今年夏にオンライン・スクール「ギャラクティック・アカデミー」を開設しました。無線ラジオを使った交信、チャネリング、リモートビューイング、テレパシー、瞑想、ライトランゲージ、サイコキネシスなどを使った交信ですでに驚異的な成果をあげはじめているこの試みの方法論、ケーススタディー、統計結果などをご紹介します。ライトネットが今後、日本の研究者の皆様にとっても、ご研究成果を海外で実践する場となることを望みつつ、ご提案させていただきます。

連絡先: エリコ・ロウ LINE & FACEBOOK: ERIKO ROWE E-mail: eriko@mindfulplanet.com

<一般発表>

ホログラム記憶解決法によるトラウマ解消&痛み軽減効果

Eriko Rowe (エリコ ロウ)

マインドフル・プラネット・コミュニケーションズ・バイオ・エネルギー・トレーニング代表
ホログラム記憶解決法認定プラクティショナー (シアトル, 米国)

要旨: ホログラム記憶解決法(Holographic Memory Resolution) は米国で注目を集める新種のトラウマ解消法で、記憶回復療法、神経言語再構築療法、エネルギーヒーリング、カラー波動療法、対話療法の要素を統合したエネルギー心理学療法です。催眠法や暗示は使わず、頰椎 7 番からのエネルギー補佐により患者の意識を保せたまま、心身症状や対人関係上の問題の起因となった記憶を浮上させ、思い出を上書きさせることにより、記憶に伴っていた強い感情トラウマを開放、過去の出来事に対してストレス反応を起こしていた神経回路のリセットを導くというユニークな方法です。TWA 墜落事故、9-11 の多発テロ事件後のカウンセリングにも採用され、発達性トラウマの効果的な解消法としてもメイヨー・クリニックやアンドリュー・ワイル医博などにも認められています。

本講演ではそのメソッド、臨床例、ならびに QEEG による HMR の効果の検証結果、現在進行中の HMR の痛み軽減効果に関する臨床研究についてご報告できる予定です。

連絡先: エリコ・ロウ LINE & FACEBOOK: ERIKO ROWE E-mail: eriko@mindfulplanet.com

<研究発表>

自律神経状態把握のための 1 回 10 秒呼吸での心拍変動測定

端谷 毅

はしたに クリニック (愛知, 日本)

【目的】自律神経の状態を測定するため心拍変動が測定されているが、一般的には普通呼吸(12-15 回/分)の状態での測定するのが普通であり、それらを周波数解析し、0.05Hz 以下を超低周波 VLF、0.05-0.15Hz を低周波 LF、0.15Hz 以上を高周波 HF と定義し、その値よりストレス度などを測定している。当院では 2017 年秋より eM-Wave を使用して約 5000 名の患者で定呼吸(5 秒吸って、5 秒吐く)での心拍変動を記録し、患者の約 6 割がきれいなサインカーブを描くが、約 4 割ではきれいなサインカーブにならない。事を観察している。今回 R3 年に来院した患者に対して後ろ向き研究での心拍変動を解析したので、その結果を報告する。(名古屋市立大学倫理審査の承認あり。)

【方法】R3 年 1 月 4 日~12 月 27 日までに来院した新患者 428 名の耳介に eM-Wave のセンサーを取り付け、定呼吸の音源に合わせて心拍変動を計測し、波形を Excel 上に記録した。その波形をきれいなサインカーブの患者群(N 群: N1, N2, N3)、小さなギザギザな波形群(S 群: S1, S2)と大きな変化群(B 群: B1, B2)、混合群(M 群: M1, M2)の 9 種類の波形に分類した。また患者の症状の変化と波形を観察した。

【結果】N 群は 268 名で全体の約 62%であり、細かいギザギザ群は約 18%。大きな変化群は 7.9%、混合型 7.9%であった。S 群では症状の改善に応じて、心拍変動が大きくなり、S, B, M 群でも呼吸の練習により、きれいなサインカーブになる事が観察された。

【考察】この 10 秒呼吸での心拍変動測定は、非常に敏感にその個人の自律神経の状態変化を反映するため、症状の変化を可視化できる。そしてこのような報告は、著者が調べた限りでは、世界中でも見当たらない。

連絡先: 端谷 毅 はしたにクリニック
〒470-0226 愛知県みよし市一色町東 25 番地 E-mail: hashitani.clinic@gmail.com

<研究発表>

目指せ、潜在意識による共生

橋爪 秀一

Idea-Creating Lab (日本, 横浜)

要旨: 古くから、日本人は鹿に対して可愛らしい、高貴である等の好印象を持っており、神使或は神獣として崇めてきた。しかし、現在、毎年約57万頭の鹿が害獣として駆除されており、駆除された鹿の大部分は、ゴミとして廃棄されているのが現状である。我々は鹿との共生を目指すためにも、駆除された鹿を有効資源として利用すべきと考えており、鹿肉、鹿皮や鹿茸の天然資源としての価値を模索している。

今回は、ニュージーランド、台湾、モンゴル、スコットランド、中国及びドイツにおける鹿との付き合い方と鹿の資源としての利用法について報告し、鹿との共生方法について考察したい。日本では、駆除された鹿の資源利用については徐々に増加し、改善されてきている。しかし、共生方法に関しては、多々試行はしているが、鹿を柵により締め出すこと以外の方法では、優れた効果が認められないのが現状である。その失敗の原因としては、人々の協力体制の欠如が挙げられる。鹿との共生を実現するためには、先ずは、人間同士の協力体制を図る必要があると考える。更に、私は鹿との潜在意識に基づく平和的な共生を求めているが、自然、動物、植物、他国など様々な対象との共生に、これを如何に生かすかも模索していきたい。

キーワード: 鹿, 害獣, 天然資源, 潜在意識, 共生

連絡先: 橋爪秀一 〒236-0005 横浜市金沢区並木 3-7-4-1303 電話・Fax. 045-783-2510 E-mail: hashizume.shu@nifty.com

<一般発表>

「非言語」がもたらす、感情解放と脳疲労軽減の効果線

大久保 信克

株式会社笑い総研 代表

一般社団法人 *Gibberish-Lab.* 共同代表理事 (兵庫, 日本)

要旨: 意味のない言葉を口に出すことを、ジブリッシュ(*Gibberish*)という。赤ちゃんの言葉を「喃語」というが、人間が生まれて初めて口に出す言葉は非言語で、最も原始的な言語ともいえる。一方、現代社会は言語情報の多さから、脳疲労やストレスなど、精神的・肉体的に負荷を感じる人が多い。今、ジブリッシュを活用することでそれらの症状が改善されたケースがある。なぜそのような効果が生まれるのか、独自の研究結果と参加者の声などを紹介する。

キーワード: 非言語コミュニケーション, ストレスケア, 感情解放

連絡先: 大久保信克 株式会社 笑い総研 www.warai-souken.co.jp
E-mail: info@warai-souken.co.jp TEL: 050-3134-3888

<一般発表>

自己実現のための手相の活用について

吉田 美穂

株式会社 *FlicFlac* 代表

一般社団法人 *Gibberish-Lab.* 共同代表理事(東京, 日本)

要旨: 約4千年前の古代インドに始まったと言われる手相について、ヨーロッパでは「手は人間の外なる頭脳」という言葉が有名であり、実際、右手が左脳、左手が右脳の神経と繋がっていることがわかっている。よって、手相を読み取ることで性格や感情の深さ、健康や精神状態を深く知ることができ、目的達成のために必要な手段や方法などの具体的なアドバイスが可能となる。目に見える線から自信や希望を与え、他人に左右されない自分らしい生き方の実現へ、手相の活用アイデアを実際の鑑定後の変化を交えながら紹介する。

キーワード: 手相, 自分を知る, マインドフルネス, 意識改革

連絡先: 吉田美穂 株式会社フリックフラック 〒152-0035 東京都目黒区自由が丘 2-18-11-1F
<http://www.serendi-pity.net> E-mail: m.yoshida@flicflac.jp